



KEKAN 景観

このまちが好きですか
生まれ育ったこの場所
今暮しているこのまち
そしてこれからも……

どんなまちになってほしいか
もう一度みつめ直してみませんか

自分のために
家族のために
そして大切な
子どもたちのために……

Do you like this city?
The city where you were born,
The city where you now live.

Take time to think
Of what you want the city to become
In the future.

Consider it for your sake
For your family's sake
And for that of your
Precious children.

99-創刊号 上越市景観形成情報誌



●創刊記念対談
「上越市の景観」
北川 フラムさん
遠藤 洸一さん
宮越 馨上越市長

●と撮って出し上越
—景観デザイン賞受賞景観マップ

●インタビュー
「ここがいい、上越市」

●私たちのまちづくり活動
—市民のまちづくり団体の紹介
・マリンロード350景観整備促進協議会
・建築と子供たちネットワーク上越
・青田川を愛する会
・パブリックアート推進委員会
・寺町まちづくり協議会



●パブリックアート推進委員会●



●造形作品に七夕飾り

地域の連帯を深めながら造形美術を楽しんでいます

会長 榊原 僚子

私たちは、上越教育大学へのアプローチ道路の歩道に設置された屋外アート展示台などに上教大修了生の造形美術作品を展示したり、地域の皆さんとともに七夕飾りや街灯にハンギングツリーを飾るなどの活動をしています。

大学前区画整理事業が終了した後、安らぎのある文化的な地域づくりを目的に、大学の教官や地域住民、事業所が協力して発足しました。

通り沿いの新築された家々も、周囲との調和を考えた外観で、色調をおさえて建ててくださっています。

今年度、フレスコ画の手法でコンクリートに壁画を描いたときは、美術科の学生さんたちからのお手伝いばかりでなく、近所の方から差し入れをいただいたり、電気を使わせてくださったり、温かいご協力をいただきました。

展示物が変わるごとに、通る人が何かしら感想を聞かせてくれます。住む人が少しでも環境や景観に関心を持ってくださっていることをうれしく思います。

今後さらに、自然の風景と調和した、親しみやすい、みんなに愛される道になるように努力していきたいと思っています。

「歴史とみどりが息づくやすらぎのまち・寺町」の実現活動

会長 松平 正夫

寺町は、2丁目、3丁目、63寺院が並び建ち、そのほとんどが東側を向いている町です。また、高田城築城以来380有余年の歴史を見つめてきた寺町は緑あふれやすらぎを覚える町でもあります。この景観ががもし出す風情は全国希に見る珍しいものと評されています。

寺町まちづくり協議会は、寺町を一層魅力ある町にし、住民が自分の住む町に誇りと愛着を持って住み続けて行ける町にするため寺町の特徴を生かしたまちづくりを目指し住民と寺院が一体となって自前の活動を行っています。(会員50人)

まちづくりの目標は、「歴史とみどりが息づくやすらぎの町・寺町」の実現を掲げ、寺町の現状の理解、課題の把握、将来像の仮設定、活動計画の立案、実践活動へと歩みを重ねております。主な活動は次の通りです。

- ・高田寺町界隈寺院案内図看板二面設置
- ・高田寺町界隈寺院ガイドブック発行
- ・「寺町まちづくりを考える集い」実施
- ・寺町まちづくりの約束ごと(案)提示
- ・「寺町まちづくりだより」年3回発行
- ・手作り「寺院めぐりパートⅡ」作成
- ・タウンウォッチングの実施(参加自由)
- ・「寺町の木」の推薦、植樹推進
- ・平成10年度県ふるさとづくり賞受賞
- ・平成10年度全国ふるさとづくり賞受賞
- ・県の顔づくり事業「景観形成推進地区」指定
- ・国土庁ラバーリゾート調査対象地区

寺町まちづくり協議会は、寺町らしい公園の建設や来町者にも温かい寺町の施設等ができたらいのにと、「景観」に「心」を打ち込む未来寺町の構想を膨らませています。

●寺町まちづくり協議会●



●ポケットパーク実現をめざすタウンウォッチング

あ と が き

山あり、川あり、海あり、そしてあったかい人情ありと…、新しい上越市の発見がたくさんありました。そんな感動を皆様にもお伝えできればと願っています。(青木ユキ子)

この冊子が上越市の未来景観への懸け橋になるよう思いを募らせてきました。(金井 繁)

いっしょに編集の仕事をしながら、自分の知らない上越の話もおききしたりして違った思いでこのまちを見つめるようになりました。(坂口りり子)

編集スタッフの皆さんのタフさには頭がさがりました。これからの上越はこんな元気な先輩(すみません!)の方や女性を中心に「まちづくり」が進められるのだと確信致しました。(清水恵一)

10年後の上越市を想像して、楽しみながら編集に携わることができて、とてもありがたく思っています。(滝沢真弓)

「景観」創刊号をお届けします。ご感想はいかがでしょうか。景観条例のありかたなどについて、皆様のご意見をお待ちしております。

上記の皆さんから企画編集に多大なご協力をいただきました。勤務を終えてから市役所にかけて、寒い中夜遅くまで、熱のこもった編集作業でした。心からお礼を申し上げます。(景観デザイン室)



上越市では、景観条例を平成11年度の制定に向けて検討しています。条例のありかたなど、皆様のご意見をお待ちしています。

表紙 デザイン：坂口りり子
英 文：エレナ・ハインズ(上越市国際交流員)
写 真：右 上○パブリックアート(上教大前)
左上より○冬の海岸通り(中央3)
○夕暮れの平和友好像(川原町)
○水と光のハーモニー(高田公園南堀)
○朝市と雁木(大町3)
監 修：筑波 進

上越市景観形成情報誌「景観」創刊号 平成11年3月発行
発行：上越市都市整備部都市計画課 景観デザイン室
〒943-8601 新潟県上越市木田1丁目1番3号
☎(0255)26-5111 FAX(0255)26-6112

●この情報誌は再生紙を使用しています。

POST CARD
9 4 3 - 8 6 0 1

恐れ入りますが、50円切手を貼って投函して下さい。

新潟県上越市木田1丁目1番3号
上越市都市計画課 景観デザイン室

上越市景観形成情報誌係 行

景観デザイン室:FAX (0255) 26-6112

ふりがな
お名前

年齢 歳

ご住所 □□□-□□□□

TEL

きりとりせん



創刊記念対談 上越市の景観

住みよいまち
住んでみたくなるまち
住み続けたいまち

北川フラムさん

1946年上越市生まれ。アートディレクター。外国、全国で多くのまちづくり、都市計画に携わっている。
36か国92人のアーティストがまちづくりに参加した「ファーレ立川アート計画」やアートの領域を超えた活躍が他のジャンルに多くの刺激を与え、その功績による日本産業振興協会会長賞やメセナ大賞など多くの賞を受賞。
ふるさと上越市では景観条例検討委員、中心市街地活性化基本計画策定委員、高田本町商店街にぎわい対策プランアドバイザーなどの委嘱を受け、活躍中である。
主著「パブリックアートの世界（別冊太陽）」（平凡社刊）

宮越 馨 上越市長

聞き手
遠藤 洗一さん
新潟日報社上越支社長

遠藤 本日は、景観情報誌の創刊を記念して、上越市の景観をテーマにお二人にお話しいただきます。

それではまず市全体の印象についていかがでしょうか。

市長 全体に自然環境や山並みに広がりがあるのが非常にいいと思います。城下町高田の、城を中心とした碁盤の目状の街並み、また港町直江津、春日山の豊かな自然といった、感じのいい景観の素材が多くあります。ただ全体として遠目はいいのですが、ズームアップすると景観的に問題があるのではないかと思います。

北川 確かに遠望はいいと思いますし、緑が多いです。ただ幹線沿いで、大きな事業所とか、商店などの景観的な調整がうまくいっていない印象がありますね。



北川フラムさん

北川 フラムさん、自然環境をバックに、「心地よさ」「快適さ」「感性をくすぐる形」「音」「匂い」さらに「人」これらすべてが調和して雰囲気醸し出される。これが「よい景観」だと思います。

何をどうしたらいいか

遠藤 では地域ごとにどうしていったらよいか見てみましょうか。まず高田地区から…。

市長 高田市街地は、高田公園を中心とした城下町の街並みが三百年も続いています。住みやすい、機能的なまちだと、自然に住民が受け入れているんですね。

市長 そうですね。

人にやさしいまちづくり

遠藤 自然・都市と人との調和ということでお話がありました。お年寄りや子供たちのためのやさしいまちづくりという観点から…。



遠藤洗一さん

北川 日本はお年寄りがまちに出てない。出てきてほしいですね。それには歩道を作る、お年寄りや障害者など、お年寄りや障害者を持つ方にも配慮したデザインであること、どこかでチェックするとかね。

市長 景観に対して特別な意識はなくても、お年寄りや障害を持つ方、子どもは自然に自分の体が受け入れられやすいところに向かっていますね。その視点を大事にしたいです。

北川 そして、その空間にはぜひ「陰影」がほしい。ただ明るいただけでなく多少の「陰影」があることが人にとって快適なのであって、そのニュアンスが上越には残っていると思うので、そこを大事にしてほしいです。

で、景観づくりはきめ細かくやった方がいいですね。

遠藤 特に高田の街並みです。ぐっすり浮かぶのが雁木ですが、市長 はい。歴史的に言えば、「雁木」は庶民の生活の知恵です。自分の財産を使って、共同社会において生活を円滑にしていくという素晴らしいアイデアが街並みの連続性として残っているのです。しかし、もともと景観の視点を考えて造ったものではなく、決していい材質のものではありません。これを、見た目だけを考へて造り替えていくことは雁木の成り立ちを否定することになりますので、例えば場所によって生活の雁木とか、観光の雁木とか、役割や機能を考え、使いながら育てていくことが大切だと思います。

今、高田駅前に雁木風アーケードを建設中ですが、現代の発想で機能面と造形美を併せて創り出していこうとしています。

遠藤 自然が残っているという点では、春日山も素晴らしいですね。

市長 そうですね。春日山は自然を利用し調和させながら戦略的なまちづくりが行われたところで、今もほぼ自然のままです。これが素晴らしい。

景観条例を検討中

遠藤 いま市が制定を検討している景観条例については…。

市長 北川先生にも委員をお願いしている景観条例検討委員会、条例の内容などを検討していただいています。

北川 先日、第一回委員会が行われて、市から条例に対する考え方が提示されました。「住みよいまち・住んでみたくなるまち・住み続けたいまちを指して」という目標と、「市民の手によるまちづくり型の景観形成」という手法はとてもいいと思います。

ただ、今後も条例によって屋外広告物などを規制するという場合は、私的権利の面で非常に面倒になることがあります。

市長 規制の部分については、景観形成に対する住民の方たちの意識の高揚に基づいて考えていくべきと思っています。いわば、「だれが見てもおかししい」という判断も規制の一つの基準になるのかな、と。

市民一人一人、景観に対する概念に違いがあるので、特定の意見に固執せず進めたいですね。

これからも極力自然を破壊しないようにやっていかなければいけません。

北川 春日山はもつと散策できるように、面白い仕掛けができそうですね。

外国へ開く海、そして川

遠藤 海岸線、直江津駅周辺や港についてはいかがですか。

北川 「海」に関しては、思い切って強いデザインで、ベイスをつくっていったほうがいいと思います。例えばデッキを造るとか。もちろん材質を考へてですが。夕陽を眺めるとか、デートスポットとしてもいいでしょうね。

直江津商店街にも同じようにデッキを造って海岸を意識させるとかね。外国への開口部だから、もつと元気に意識を海に向けてほしいですね。

市長 直江津は工場群や物流施設、つまり経済主義の物づくりが前面に出してしまったために、生活とか人間くさい港まちの雰囲気は後ろに下がってしまったように思います。昔は、一番海に近かった「永代橋」を挟んで両サイドがにぎわっていたと思うので、永代橋の再建ができないかなと考へているんです。さらに「出島」を造ろうと

仕掛けや助成があるといいですね。



市長 そうですね。あまり自由を拘束しない「景観形成ガイドライン」の作成と行政側の助成のあり方、そして市民、事業者からどう参加、協力をいただくか…。検討課題はたくさんあります。

上越市の緑と歴史が醸し出すまるやかな雰囲気を壊さないようにするにはどうしたらいいか、というテーマを市民の皆さんに理解してもらい、自発的に、景観に配慮したまちづくり活動をしていただきたく考えています。

市民の皆さんから、意見をよせていただきました。遠藤 今日はどうもありがとうございました。北川・市長 ありがとうございます。



宮越馨市長

という構想があります。これは実現すると、かなり雰囲気が変わります。

遠藤 「川」も景観の大きな素材だと思っております。北川 街の中には用水もありましたね。市長 市内の用水や大きな川は、実利の面で機能的に造られているため深くなっていて、このため今は住民の生活から遠ざかってしまい、ごみ捨て場になってしまいました。子供たちが安心して遊べるように浅くしたらいいと思うんです。

ただあまり手を入れ過ぎると、逆に自然や景観を壊す恐れもあるのです。自然のイメージを変えずにやりたいですね。本腰を入れてやると相当お金がかかりますけれど。

広がる市民活動

北川 大切な財産を守るといふ観点でいえば、深さを変えなくても花を植えるとか、親しみのもてるデザインで雰囲気を保つなど、方法はいろいろあると思います。

北川 市民意識が高まらないと進まないと思います。それを市がどう手伝うか、ということですね。

北川 市民意識が高まらないと進まないと思います。それを市がどう手伝うか、ということですね。

北川 市民意識が高まらないと進まないと思います。それを市がどう手伝うか、ということですね。



1 平和友好像(川原町)
直江津捕虜収容所の跡地に造られた平和記念公園のモニュメント。三重の塔はどこから見ても趣があるが、再建された本堂と対比したこの視点が面白い。



2 上越テクノセンター憩いの広場(福田)
工場の景観美化運動の一環として整備され、歩道やバス停にもつながるオープンスペースとなっている。このような取組みが今後様々な企業に広がることを願う。



3 白石さんのお宅の塀(五智3)
環境に溶け込み、歴史の香りが漂ってくる雰囲気を感じられる。周辺の環境との調和もとれている。



4 上越教育大学前遊歩道
土地区画整理事業により整備された広い歩道。地域が大学を大切に守り、その環境を築いていこうとしている様子がうかがえる。



5 はさ木から春日山を望む(米岡)
はさ木だけでなく、妙高、南葉、春日山の眺望も美しい場所である。保存していきたい田園景観である。



6 国分寺の境内(五智3)
国分寺は市民にとって心休まる清閑な場所。三重の塔はどこから見ても趣があるが、再建された本堂と対比したこの視点が面白い。



8 林泉寺の境内(中門前1)
市を代表する名刹。歴史と伝統のゆったりした景観が人々を包んでくれる。郷土の誇りとして守り大切にしたい。



9 パブリックアート推進委員会の活動(上越教育大学前)
地域住民が中心となり、アートによる文化的な地域づくりを進めている。快適な生活環境を築いていこうとする気持ちが伝わってくる。



10 寺町界隈寺院案内図・浄興寺前(寺町2)
地元のみならず協議会の協力で設置された。歴史の香りが漂い、周辺の寺院群の環境にも調和している。



7 灯台(西防波堤)
海から訪れる人々に快い印象を与え、真っ赤な色彩が港の活気と現代的な雰囲気を醸し出している。



ここに紹介したのは、「上越市都市景観デザイン賞」を平成7年度第1回から平成10年度第4回までに受賞した景観です。写真の説明は審査員講評の概要です。

都市景観デザイン賞は、市内の美しい眺望や風景、調和のとれたまちなみ、自然と周辺との調和、デザインや色彩の美しい看板や個性的な建物、歴史や文化を生かしているもの、またショーウィンドーなどを写真にとって応募していただき、優れている景観を表彰するものです。写真の出来ばえは問いません。

今年も7月中旬ごろ募集を開始する予定です。詳しくは広報などでお知らせします。撮影の時期は問いませんので、「こんなのもいいよ!」という、紹介したい景観があったら、ぜひ今からご準備ください。

(問い合わせ: 上越市景観デザイン室 ☎26-5111)



11 転作田のコスモス(北田屋新田)
地権者の方々の理解により景観作物として栽培されたもの。農村風景の一つとしてこのような景色が増えたら素晴らしい。



13 善行寺参道の杉木立(寺町3)
境内の整備が行き届き、市街地でありながら静寂な雰囲気を感じさせている。寺院の景観を考える機運が高まっていくことを期待したい。



15 栗原内科医院のガーデニング(大手町)
自分の周囲を気持ち良く整えることもまちづくりの基本の一つ。人と人との関わりを大切にする姿勢がうかがえ、心が和む。



20 藤林医院の石垣、生垣(西城町3)
住宅地にあって自然を生かし、落ち着いた雰囲気である。石垣・生垣の調和も良く、歴史が表われている。保存によく努力されている。



24 高橋孫左衛門商店(南本町3)
雁木の街並みを残し、古い建物が丁寧に使われている。雁木の保存と再生を住民とともに考えていくことが大切である。

25 五十嵐さんのお宅(大手町)
家の壁や敷石、庭木にも細かく配慮が見られる。境界としての塀がなく、近隣の融合、調和を大切にしている姿勢がうかがえる。



12 高田公園の散歩道(本城町)
緑と自然を生かし周辺との調和を図っている。良く手入れされた土手と歴史を語る木立が杜の都の誇りを表わしている。



14 株清水組社屋(稲田3)
建築にコンクリートを使用しているが周囲と違和感がなく、自分の生活するまちに対する愛情が感じられる。



16 高田公園の桜並木(本城町)
陸上競技場とテニスコートにはさまれた場所に整然と植栽されている。高田公園は市民の心の拠り所でありこれからも積極的な整備を望みたい。



21 高田公園歩道(本城町)
散策を重視した遊歩道の在り方を示唆している。このような歩道整備が進むことを期待している。



26 県立看護短期大学(新南町)
建築・造園のデザインがともに周囲と調和している。新しい景観として完成度が高く隣接の中央病院ともカラーコーディネートが図られている。今後の周辺整備に期待する。



17 シンボルロード(西城町3)
従来からあった沿道の樹木を生かし歩道を優先している。これからのまちづくりに希望ももてる。



18 雁木(東本町4)
雁木の美しい街並みを保存することに住民が努力を払い、一つの提案ともなっている。地域の景観づくりを考える契機となることを望む。



19 小林さんのお宅(大手町3)
雁木づくりを取り入れた家で、雁木の美しい街並みを再生させる希望が感じられる。



22 金山からの眺望
高田地区が一望できる場所。近景の緑、中景の街並み、遠景の頭城の山々、広がる空。緑豊かな街並みが心を和ませる。



23 日本スキー発祥資料館(金山)
スキー発祥の地を象徴する建物である。今後、周辺の自然を生かした金山公園の整備に期待する。



24 高橋孫左衛門商店(南本町3)
雁木の街並みを残し、古い建物が丁寧に使われている。雁木の保存と再生を住民とともに考えていくことが大切である。



25 五十嵐さんのお宅(大手町)
家の壁や敷石、庭木にも細かく配慮が見られる。境界としての塀がなく、近隣の融合、調和を大切にしている姿勢がうかがえる。

青田川を愛する会



青田川のクリーン活動

水と緑の美しい青田川に

会長 桑原 清作

青田川には、もともと高田城を築城した時のなごりがあります。昔から度々洪水に見舞われていましたが、国の改修事業によりその心配がなくなり、その後市民の水と緑の憩いの場として整備していきたく、平成3年に会を発足させました。会員は当時7名だったのが現在は30団体、個人186名となっています。

発足当初から青田川的环境美化、河川愛護運動を続け、行政からの指導も得ながら、会の充実を図ってきました。主な事業を次にあげます。

- ・官民合同のクリーン活動
- ・青田川短歌・俳句の吟行、展示
- ・ポスターの無料配布
- ・整備事業の促進の陳情
- ・小中学校に副読本やガイドブックを配布し河川学習を後援・助成
- ・機関誌「青田川通信」の発行
- ・先進地視察、講演会参加
- ・ビデオ「青田川」作成
- ・青田川の愛護、橋の今昔の写真展作成配布

このような事業を通じ、人と人との絆を深めながら市民の河川愛護精神を高め、動植物と人間とが共存できる環境づくりの精神を育てていきたいと考えています。

私たちのまちづくり活動



にぎわう350まつり

マリノード350 景観整備促進協議会

海の玄関口に夢ひろめる活動

会長 高橋 藤吉

私たちの会は、国道350号沿線の事業所代表6名が発起人となり、「350同友会」として平成2年10月に発足しました。現在では、61事業所が会員となり沿線の5つの町内（下源入、松村新田、春日新田、春日新田5、港町）の協力を得ながら道路を中心としたまちづくりに取り組んでいます。

国道350号は、市内下源入から直江津港を経由し、海を渡り佐渡まで続く「海を渡る国道」として有名です。直江津港へのメイン道路沿いに位置する私たちの地域は、港から訪れる人々に対し上越市の海の玄関口として印象づけるような景観をも重視したまちづくりを目指しています。国道ということもあって行政が主体の道路整備になりがちですが、そこに私たちも可能な限り参加し、自分たちが住み働いている地域の道路が楽しく夢のあるものになって欲しいと願っています。

また、道路の愛称を募集し、多数の応募の中から「マリノード350」と名づけられ、イメージアップが図られました。現在国道350号に親しみを持ちながら地域の人々とまちづくり活動を行っています。

年間の事業として先進地の視察・講演会等の勉強会を重ね、同時に会員相互の親睦も大切と考え、従業員ボウリング大会や夏には350まつりの開催、また街路樹の根元に花を植えたりして人と人とのつながりも大切にしながらまちづくりを進めています。

これからも勉強会を重ね、市内各地域で活動している団体と交流をもちネットの輪を広げていきたいと考えています。



地域の未来のまち模型づくり

建築と子供たちネットワーク 上越

子供たちのもつ豊かな可能性を育てよう

会長 古沢 良彰

学校、子供たち、地域が共に力を合わせ、子供たちの学び力を伸ばすことで更に新しいまちづくりや文化が生まれることを願い、その総合的な学習題材として建築を用い、建築専門家も協力し合って新しい教育の試みをしようとして平成6年にスタートしたものです。

子供たちが自分の育つ上越市の現状を見つめながら自然環境と人工環境の調和を考え、人間らしい生活の場での問題点を意識していけるように、更に建築の持つ科学、技術、芸術、人間生活などの総合的な課題に対し子供なりに取り組むことで、生活に密着した問題解決力を育てたいと考えています。

子供たちの美的感性や創造性の芽を育てながら、その体験が将来の生活の「風景画」となり、問題解決力の基礎となることを望んでいます。

- 主な活動は次の通りです。
- ・タウンウォッチング・カメララリー
 - ・親と子の建築教室（折り紙、割り箸利用）
 - ・優れた建物や寺院などの見学
 - ・簡単な木材加工の実習
 - ・地域の未来のまち模型づくり

創刊号はいかがでしたか。ご意見、ご感想、何でもご自由にお寄せください。お便りを待っています。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

ご住所

お名前

◎FAXでもご意見を 景観デザイン室 FAX (0255) 26-6112 受付けております。

インタビュー ここがいい、上越市

上越市への思いを市外にお住まいの方、市外から転入された方に語っていただきました。

歴史、名所に恵まれたまちです。

上越から東京に移り住んで、様々な土地を訪れてみると、上越市が歴史と名所に恵まれているということでは京都、金沢もかなわないくらいだと改めて思います。特に加賀街道の松並木は、残す努力をしていただきたいですね。

景観条例の検討にあたっては、規制だけでなく、上越らしさを大切に、次世代にアピールできるものを創り出すことや各拠点をクローズアップした魅力あるまちづくりのために提言していきたいと思っています。

(景観条例検討委員・上越市出身 東京都在住の会社経営者 和久井 博さん)

雪とゆったりとした空間が好きです。

通勤族です。今回初めて雪がある所に来ましたが、自分がその場所場所を楽しむ事が好きですので、大変というより、女性のスキー教室があったり、雪国ならではの楽しさを感じています。

上越は有名な史跡もたくさんあり、それがそのまま自然の中にある、人が混んでいないというのがとても好きです。

ゆったりとした空間をこれからはなくさないでいただきたいと思っています。

(市内在住の主婦 津田 加根子さん)

生活文化が残っています。

上越市は、文化活動が盛んで、私の内面的成長を促してくれます。大切に思う町です。

狭くて人の肩が触れ合う出会いの雁木、人の往来で石畳が光っている雁木は生活文化の遺産ですね。今残っている雁木を保存してほしいです。

今でも天窓から自然の明りを取り入れている家があります。そのような家を残したい。ハイカラな家よりも、雪国に似合いますね。

高田公園は素晴らしいですね。あまり人為的な公園管理はしないでほしいと思います。

朝市は観光化されていないところがいいと思います。朝市で見かける地べたに店を広げ小さくなっての売り買いも楽しいですね。

直江津の海は刻々変わる色が美しい。そして人が明るい。よい景観は、風景と住む人の心がマッチしなくてはなりません。

(妙高村在住の水彩画家 河原崎 律さん)

山並みの美しさが最高です。

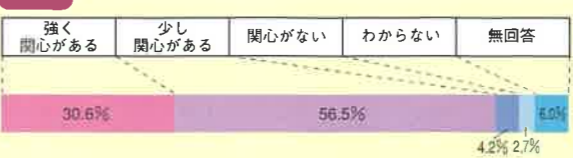
富山に住みながら京都や北陸で仕事をしています。上越に来て一番感じたのは自然の美しさです。特に近景（春日山付近）の山並みの美しさは、最高です。人工的に植樹された山にはない美しさを持っています。自然と友達になれるよい所ですね。これからしばらくの間上越にいます。もっともっと良いものを感じとれると思います。

(小林古径邸復原工事の棟梁 中野 重光さん)

上越市の景観について市民1,505人から回答をいただきました。

平成8年度市民意識調査より

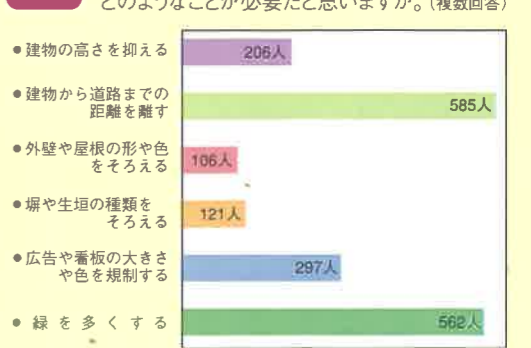
Q1 あなたは上越市の景観について関心がありますか。



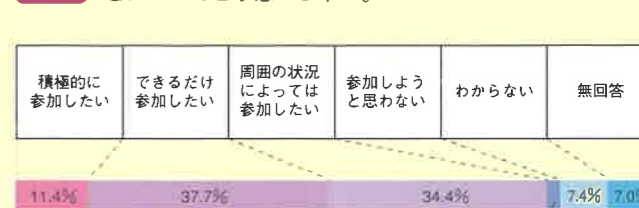
Q2 景観の面から見て上越市はどのような点ですぐれていると思いますか、また劣っていると思いますか。(複数回答)



Q3 調和のとれた美しいまちなみにするにはどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)



Q4 あなたはまちの景観をよくするための活動に参加することについてどう思いますか。



市内でまちづくり活動を進める市民団体のうち五団体に登場していただきました。

きりとせん